万国正義院

バハイ世界本部

150年レズワン

世界中のバハイへ

心より愛する友へ

1　われわれは、聖なる年の素晴らしい恵みが益々増大する中でその年を終えた。そして、神聖なる勤めにおいて確証を得、一新され、勢力を与えられ、ついに今日、「祭典の中の王」を迎えた。それは「アブハの美」がその世界的共同体に彼の恵みの輝きを放った時であった。その恩恵の放出はバハオラの昇天とその聖約の樹立百年記念という意義ある二重の記念に努力を傾けたバハオラの従者たちに驚くべき成功をもたらした。聖なる年は、かつてないほどに「最大名」が地上にこだました歴史的な小休止の時期でもあった。これらの成果が外面的現象であったのは確かであるが、結局それらはバハオラとわれわれとの関係を以前にも増して深く理解するという、内的な達成の反映であった。共同体の普遍性と、バハオラの信教の最初にして、すべてを従える原則の体現とについての各自のより深い理解は、新たな拭い去りがたい印象をわれわれの心に残した。その認識の影響は、昨年５月、聖地において顕著に実証され、さらに１１月に世界大会でより広範囲に示された。それはあたかも、人類世界がこの絶望的に困難な時代の中にありながら、誰にも止めることのできない勢いを持って、未だ達成されない和合と平和の運命に向かって進んでいることをわれわれに確認させた。実際、「聖なる年」の間にわれわれは、精神の翼に乗って頂上へと運ばれて行った。そしてその頂上からわれわれは、主の太古からの約束の急速に近づきつつある栄光を見たのである。その約束とは、人類の和合がある日達成されるというものである。

2　聖なる年の出来事の感動的な詳細を、ここで描写するには余りにも多くのことがあった。なぜなら、聖霊の働きは普遍的に感じられ、それは、友らの活動を神秘的な力で満たしたからである。ここでは、昨年五月に、過去最高の数のバハイが聖地に集まった集会などのハイライトを思い起こすことにとどめておこう。ほとんどの国の代表者がバハオラの廟の周囲を巡り、生存中のバハオラの騎士の大半が見守る中で、最も聖なる廟の入り口に栄誉の巻物が納められたこと、前例のない大規模な世界大会とその参加者の多様性、および自分たちで作ったプログラムに参加した多くのユースたち、あの圧巻とも言うべき行事における世界の諸民族と国の代表者の行列、大会および世界本部を全大陸と結んだ衛星放送、などである。これらは、まれにみる経験であり、百年記念の式典の名声を不滅のものにした。

3　これらの記念式典を催すために人里離れた村から大都会まで、世界中の友らによってなされた無数の、想像力に富んだ努力は、バハオラの信教が強化された度合いを改めて示し、いつもとは変った、驚くべき成果をもたらしたテイーチング活動を多くの地域に引き起こした。聖なる年の目的と活動についての前例のない宣伝が、さまざまな国でマス・メデイアを通して行われ、国会や公的機関の役人らがこの百年記念に注目した。政

府機関による信教への認識と理解の姿勢、地球規模での大イベントへのバハイ国際共同体代表の参加、そのような発展は共同体全体が公に高く評価されるようになったことを明確に示している。バハイ国際共同体の地球的イベント参加としては、昨年六月リオ・デジャネイロで開かれた環境と開発に関する国連会議があるが、その会議に関連して、バハオラの書からの抜粋と最大名を刻んだ記念碑が建設された。

4 これらの素晴らしいイベントや発展とは別で、人類全体への遠大な含みの故にさらに重要な出来事は、「最も聖なる書」と言われるケタベ・アグダスの注釈付き英語訳が、ノウ・ルーズに発行されたことである。このことによりわれわれは、アブドル・バハが描かれた時代へと一歩近づいたことになるのである。「最も聖なる書の法律が施行されるようになれば」「．．．世界平和の天幕が地球の中心に張られ、祝福された命の木は育ち、東西をおおうほどに広がります。」と師は述べている。

5 百年記念の年はまた、世界全体における状況がさらに混乱し、矛盾した時期であった秩序と混乱、期待と不満という二つ兆候が同時に存在した。このような世界の状況のまっただ中にありながら、われわれは、聖なる年がわれわれの心に生み出した驚きと喜びの感情、勇気と信念を持って、この信教150年目のレズワンにおいて、三年計画を開始する。三年計画の期間は時代の急速な変化のためにやむなく短くなっている。しかし、計画の主な目的は、大業と人類の将来に不可欠なものである。それは、「聖約の中心」によって記された聖なる布教計画の展開における次の段階である。三年計画は、地球の社会的進化のこの重大な瞬間にみられる膨大な機会に、応えんとするわれわれの決意の尺度となるであろう。各全国共同体が実情に合わせてこの三年計画に述べられた目的を確固として追求し、その目標を着実に実現させるならば、急速に過ぎ去ろうとしている、運命に満ちた二十世紀終末に全人類が直面する、避けがたい挑戦に関して信教が果たすべき役割を適切に予測するための道が明らかにされるであろう。

6 バハイ共同体の大規模な拡大は、過去の全記録をはるかに上回るものでなければならない。村や町や都会において、バハオラのメッセージを人類全般に広める仕事が急速に拡大されるべきである。この必要性は重大である。それなしでは、苦心して作り上げた行政秩序の機関は、深まりつつあるこの絶望の時に人類が叫び求めているものを供給するという本来の力を十分に発揮し、発展するための活動の舞台を得られないのである。この点において、テイーチングと行政の相互性が十分に理解され、広く強調されなければならない。なぜなら、それらは互いに強化し合うからである。われわれの共同体に影響を及ぼす社会の問題と、共同体自体の内部から生じる社会的、精神的、経済的、行政的な問題は、われわれの数と資源が倍増するにつれ、また、あらゆる共同体で友らがバハオラの法に従い、原則を適用し、聖なる教えに沿って信教の業務を処理する能力と自主性と勇気と決意を発展させるにつれ、解決されるであろう。

7 新しい三年計画は三つの中心的テーマを持つ。すなわち、個々の信者の信仰心を強化すること、大業の人的資源を大いに開発すること、地方ならびに全国のバハイ機構の適切な機能を助長させることの三つである。これらのテーマは、三年計画の多彩な目標をこの騒乱の時代に達成しようとするときに、成功のための必要条件を浮き彫りにするものである。

8 「人々の神に対する信仰心はあらゆる国において衰えつつある。神の健全なる妙薬の

他にそれを癒し得るものはない。不信心による腐食は、人間社会の核心をも蝕みつつある。神の威力みなぎる啓示の霊薬をおいて、何が人間社会を浄化し、復活させ得るであろうか」。文明生活の基盤を毎日のように蝕んでいる道徳的堕落の顕著な印に対し、バハオラのこのような写実的な言葉は緊急性を有す。これらの言葉は、「時代の主」を認識したすべての者の行動にとって特別な意味をもつ。バハオラの命令を受けいれたいと駆り立てる信念こそが、この認識の決定的な結果である。信仰の深さは内面的な変革、精神的・道徳的性格の健全な修得によって確保される。そして、そのような性格は聖なる法と原則への従順の結果として作られる。この目的のためになされたケタベ・アグダスの注釈付き英語版発行と、この本の他の言語での早期出版は、個人の安寧と幸福、共同体の構造の強化に欠かせない信仰心を実現させるための、聖なる導きを力強く放出するものとなる。同じく、精神性の養成ということも信仰心を養う上で不可欠である。精神性とは個人を神と結び付ける神秘的な感覚であり、祈りと瞑想を通して到達する。

9 友らの訓練と、友らが個人的に真剣に研究して信教の知識を習得し、原則を適用してものごとを管理しようと努めることは、大業の進歩に必要な人的資源を開発するためには不可欠である。しかし、知識だけでは十分ではない。訓練は、愛情と献身性を鼓舞し、聖約への堅固さを助長し、個人が大業の活動に活発に参加するよう促し、大業の利益促進のために健全な自主性を促すような方法でなされることが重要である。能力ある人々を信教に引きつける特別な努力も、今必要とされる人的資源を供給するのに大いに役に立つ。このような努力は、また、精神行政会がその重要な責務を果たす能力を鼓舞し、強化する。

10 これらの機構の適切な機能は、そのメンバーが、自らの義務について知り、個人的行動と公的責務における行動を原則に忠実に従わせるという努力に大いに依存する。自分たちの中から疎遠感や派閥性の痕跡を一掃しようとする決意、自分たちの保護の下にある友らの愛情と支持を得ること、大業の仕事においてできるだけ多くの個人を関与させるように促すことは、同様に重要なことである。彼らの導く共同体は、自分たちの作業を常に向上させようとする努力を通して、信教の誇りとなり得る生活パターンを示し、その歓迎される結果として、社会にあってますます幻滅を感じていく人々の間に希望の火を灯すのである。

11 全国精神行政会が、大陸顧問らの積極的な援助を得て、この短期間の間に取るべき進路のかじ取りをしているとき、世界本部は世界中にまたがる多様な活動の調整に従事する。そして、バハイ国際共同体が世界問題に一層深く関わることによって、信教の外交的な業務にも方向性が与えられる。これと同時に、世界本部は、神の聖なる山における巨大な建物のプロジェクトを手際よいスピードで進めることになる。これは、それに劣らず重要な意味を持つ、同時に進行する二つの課程、とショーギ・エフェンデイによってはっきりと述べられている課程の一部をなす。その二つの課程とは、小平和の確立とバハイの地方および全国機構の発展である。三年計画が終わる頃にはカルメル山プロジェクトの残りの工事の開始段階に入っているであろう。すなわち、国際テイーチング・センターの基礎工事、聖典研究センターと国際資料館の拡大が開始され、バブの廟の下方にできる七つのテラスも完成しているあろう。

12 最近の大業の仕事の劇的な拡大と、この新しい計画の間に予想される発展には物的資源が必要である。バハイ基金への献金は相当増えたとは言え、かなり長い間不十分であ

った。広く報道されている経済的危機は一層悪化する運命にあるようであるが、経済的問題であれ、その他人類が直面している緊急な問題であれ、バハオラの大業が諸国、諸民族によって正当に認識されない限り、また、信仰を告白する信奉者たちによる十分な物的支援が受けられない限り、究極的には解決されないであろう。諸国を苦しめている不確かさや、危機や財政的切迫にたじろぐことなく、自分に課せされたこの逃れることのできない神聖な責務を果たすために、何がなされるべきかについて、世界中の友らが、バハイの機構と共に、また個人的に熟考することを願う。

13 三年計画のあらゆる面において、即座に、倍加され、持続する行動をして欲しいというわれわれの請願は、主に、あらゆる地方の個々の信者に向けられる。どのような地球規模のバハイ事業であろうと、その成功を確実なものとするに十分な自主性は個々の信者に内在している。そして、敬愛する守護者が率直に述べているように、「最終的には、共同体全体の運命が彼らに依存するのである」。三年計画の目標は容易に達成されるものではないが、如何なる犠牲を払おうとも、立派に達成されねばならない。人類の直面する問題がとめどなく山積し、あるいは内部的危機の出現がわれわれの進行を遅れさせることのないように、三年計画の目標に対処するにあたり、個人も精神行政会もためらったり、時期を遅らせたりしてはならない。試練と苦難を通して勝利を得るということを常に忘れぬようにしよう。われわれは、われらの原則が有する実行性と、勝利をもたらす力とを実証する機会としてこの危機が提供する機会を掴むことによって、危機を進歩に変えるのである。神の大業のうねりの中で、危機と勝利は常に交互に現れ、進歩の糧となることが証明されている。われわれは聖なる年の勝利を満喫している現在においても、この幾度となく繰り返された経験を忘れてはならない。さらに、われらの栄光ある歴史に繰り返し示されているように、祝福はわれわれの挑戦の度合いに応じてもたらされるものであるということも忘れてはならない。

14 心から愛する友らよ。狼狽したり、ためらったりしてはならない。神の法と掟の保護のもとに勇気を得よ。今は夜明け前の最も暗い時なのである。約束されているとおり、平和は夜が終わるときに来るのである。夜明けを迎えるために前進せよ。

万国正義院

引用文献

1.「最も聖なる書の法律が ...」
(「質疑応答集」 p.75)

2.「神に対する信仰心は ...」
(「落穂集　選集その二」 P.43)

3.「最終的には、彼らに依存するのである」
Citadel of Faith p.130